ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941—1942

永岑三千輝 著

同文舘

ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆　1941－1942 ◉ 目　次

1　問題の視角と限定――両大戦とドイツ史の連続・非連続 …… 3
はじめに　3
一　ヒトラー・ナチ体制の基本戦略とその随伴現象――ヒトラーにおける民族・国家・経済　5
二　戦時下の基本戦略と民衆統合　13
三　抵抗・体制変革の内的・主体的条件の限界と改革構想の狭小性　15

2　ポーランド占領政策の展開と独ソ戦 …… 27
一　占領政策の基本的発想――ドイツ民族至上主義とその諸側面　28
二　ドイツ民族強化策と強制労働　50
三　占領政策の諸側面と独ソ戦開始までの民衆意識の諸形態　60

3　ソ連占領の基本構想と諸目標 …… 81

一　バルバロッサ指令の背景　81
二　開戦直前の構想と指針　89
三　開戦一カ月後の占領方針と民政体制の構築準備　121
四　独ソ戦開始直後の民衆意識の諸形態　137

4　電撃戦戦略の挫折と開戦後半年間の占領実態　……185
一　占領権力の確立と「ユダヤ人」虐殺　185
二　電撃戦の挫折、人的・物的消耗状況の拡大と占領政策　206
三　「冬の危機」とドイツ人民衆の意識　229

5　総力戦体制化と占領政策　……263
一　一九四二年年頭からヴァンゼー会議開催当時の民情　264
二　新たな大攻勢と占領地工業の活用　287
三　食糧の絶対的逼迫と占領地農業の活用　304

6　総力戦遂行・民衆統合と弱小民族の段階的抹殺　……325
一　総力戦化にともなう窮迫状態と民衆の意識　325
二　危機の深化と弱小の民族・民衆の段階的抹殺　348
三　一般ロシア人大衆の酷使・衰弱死の自覚的方針化——ドイツ民族至上主義の極限　362

むすびにかえて——戦後ドイツ史への展望　……377

あとがき　383
人名索引　388
事項索引　398

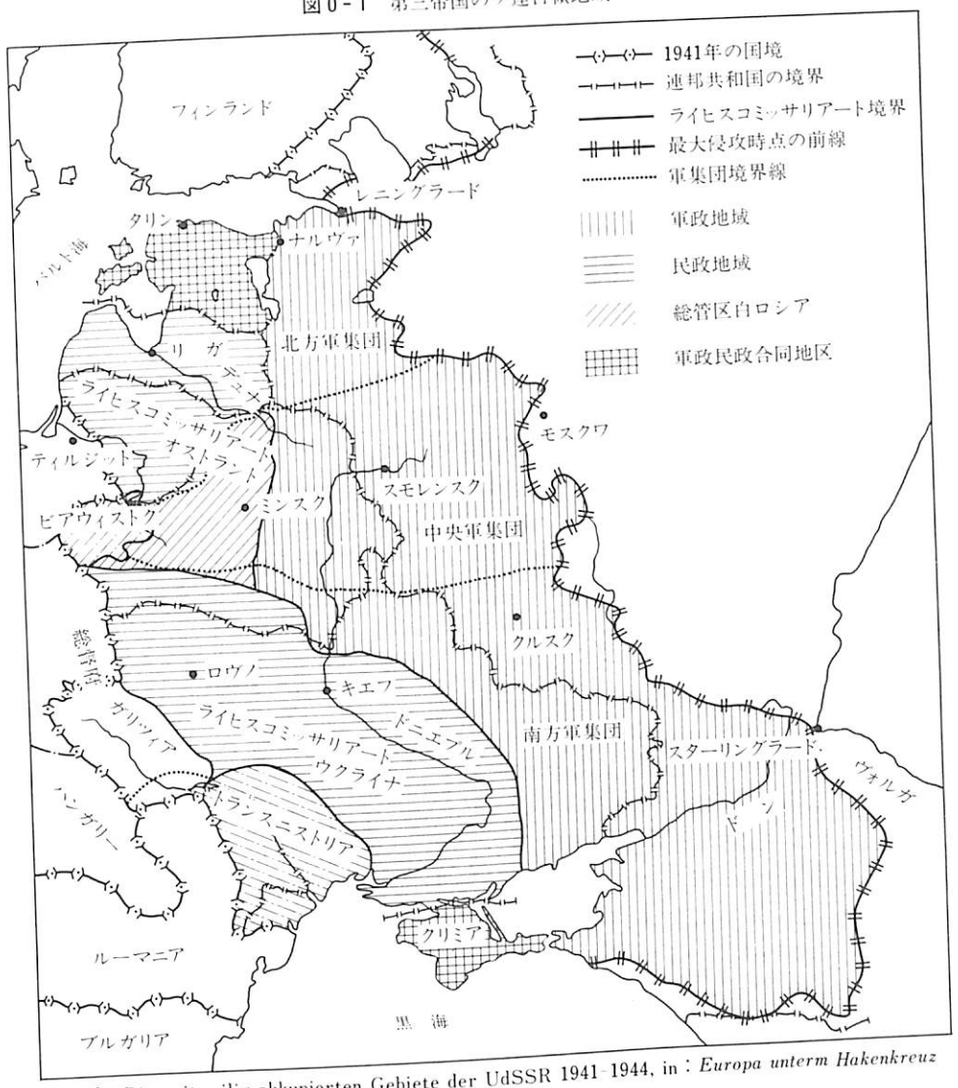
はじめに

冷戦構造の解体と東西ドイツの統一が相即不離の関係にあることは、世上ひろくいわれていることである。しかしそれでは、ドイツ問題はどのような事実関連と意味連関において冷戦体制の発生に関係しているのであろうか。これはかならずしも自明のことではない。これまでわが国では、ドイツとその支配下のヨーロッパの戦時期の諸問題について、実証にもとづいた分析がほとんどなされてこなかった。[1] わが国のドイツ史研究の問題点として、第二次世界大戦の戦時期の研究の欠如のため戦後史と大戦前までの歴史がつながらない、と指摘されてからでもすでに久しいのである。[2]

第二次大戦後のドイツ戦後改革を考えてみるだけでも、この戦前史、すくなくとも第一次世界大戦にまでさかのぼるドイツ史との関連をぬきにしては、その意味するところを理解できないことは明らかである。第二次大戦後のドイツの諸改革は、外国の諸主権国家による連合独裁下にはじまり、四大戦勝国の占領目的・占領政策の直接的な影響のもとに遂行された。アジアの強国にすぎなかった日本の戦後改革は、単独占領したアメリカの政策意図によって圧倒的に規定され、比較史的にみれば単線的なものであった。これに対して世界強国であったドイツの戦後改

1　問題の視角と限定——両大戦とドイツ史の連続・非連続

図0-1　第三帝国のソ連占領地域



出所：Die zeitweilig okkupierten Gebiete der UdSSR 1941-1944, in：*Europa unterm Hakenkreuz* (*Sowjetunion*), S. 613.